



エデンの園 写真展

50年の歩み

Photo Exhibition

昭和48年(1973年)
浜名湖エデンの園
開園当時



昭和54年(1979年)

宝塚エデンの園

開園当時



昭和55年(1980年)

松山エデンの園

開園当時



昭和61年(1986年)

油壺エデンの園

開園当時



平成19年(2007年)
浦安エデンの園
開園当時



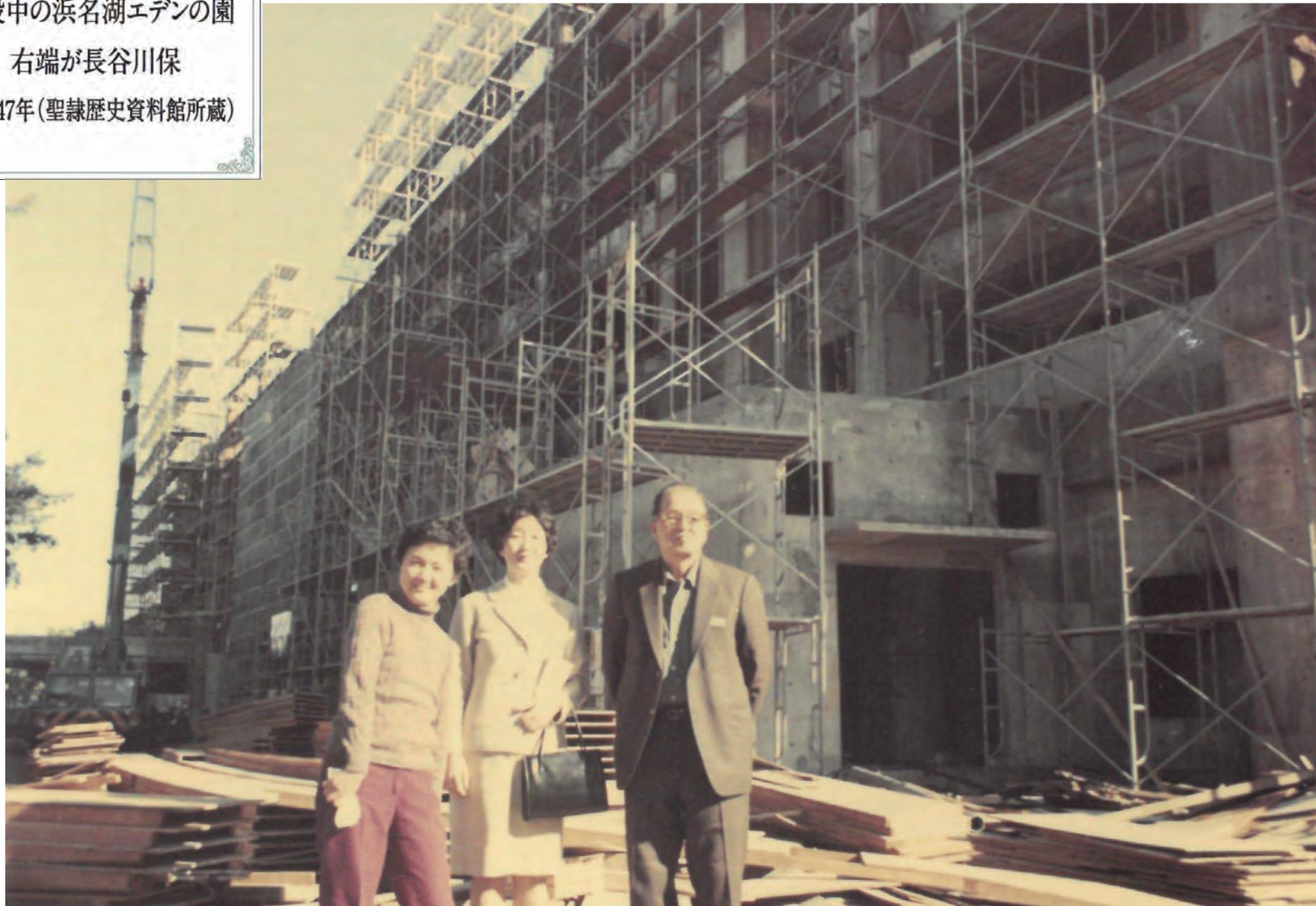
平成22年(2010年)
横浜エデンの園
開園当時



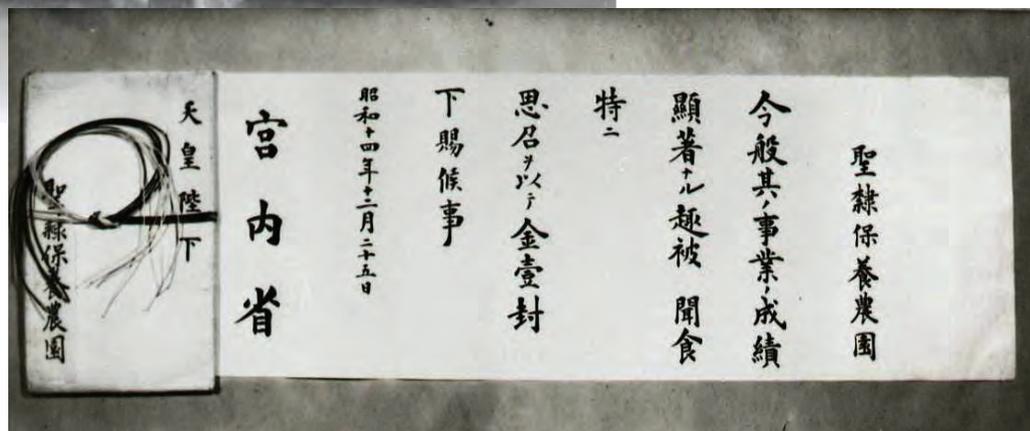
平成23年(2011年)
聖隷藤沢ウェルフェアタウン
開園当時



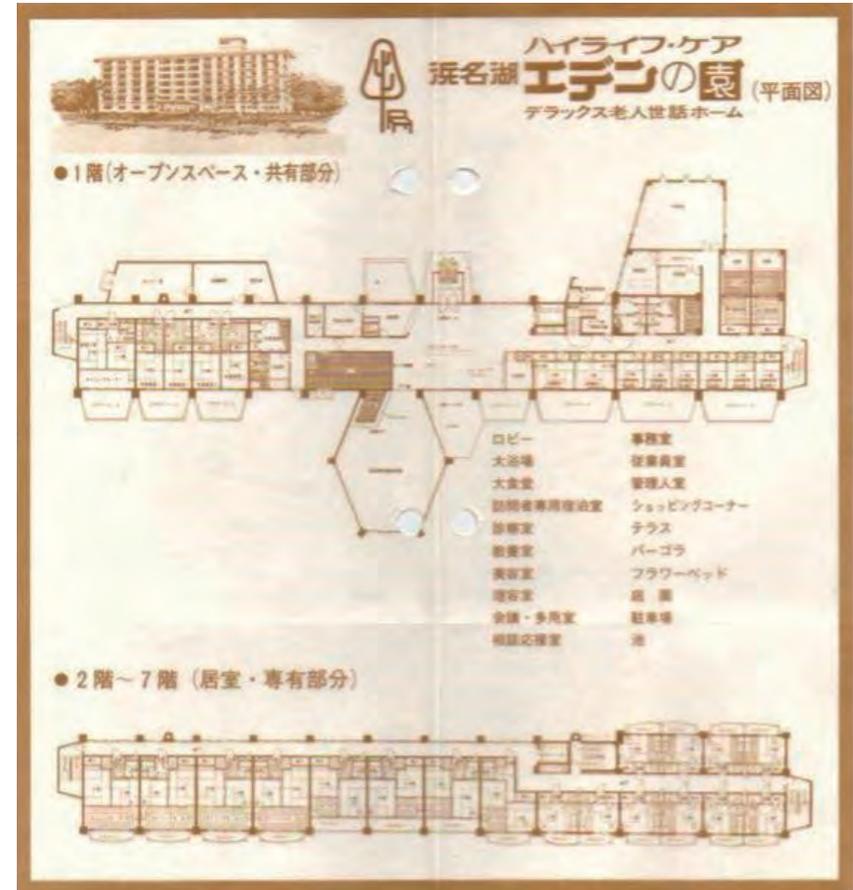
建設中の浜名湖エデンの園
右端が長谷川保
昭和47年(聖隷歴史資料館所蔵)



昭和14年(1939年)
昭和天皇陛下より
特別御下賜金を受ける。
写真は「伝達所・のし袋」と
「長谷川家・関係者」
(聖隷歴史資料館所蔵)



開園当時の
浜名湖エデンの園の
パンフレット



衆議院予算委員会
公聴会にて答弁をする
長谷川保

昭和57年(聖隷歴史資料館所蔵)



聖隷病院

(現在の聖隷三方原病院)

と浜名湖エデンの園

(探してみてください)

昭和49年頃(聖隷歴史資料館所蔵)



長谷川保夫妻の住居

(現在の浜名湖エデンの園

4・5館あたり)

時代不明(聖隷歴史資料館所蔵)



満開の桜と
浜名湖エデンの園
昭和50年(聖隷歴史資料館所蔵)



浜名湖エデンの園

園内ロビーの様子

昭和50年(聖隷歴史資料館所蔵)



昭和56年(1981年)
日本で初めて開設された
聖隷三方原病院の
ホスピス病棟の竣工当時



昭和43年(1968年)
機関誌聖隷18号に
掲載されたエデンの園
構想趣意書

3 No.3

昭和43年3月20日発行(毎月1回20日発行)

聖隷

あなた方も互に足を洗い合う
べきである。

わたしがしたとおりに
あなたがたもするように。

(ヨハネ福音書 13章14・15節)



准看生卒業式

3

1968

聖隷福祉事業集団

(趣意書)

エデンの園

自由な、働く老人ホーム建設

理事長 長谷川 保

趣旨：日本の老人ホームは大きな間違いをしている。所謂「お飼ひ殺し」である。人間は生き甲斐のある生活をしなければならぬ、して貰わなければならない。生き甲斐は、自由に、働らいて社会に奉仕する処にある。当「エデンの園」は、日本で初めての、自由な、働く老人ホームである。

要綱：この福祉施設の要綱は次の通りである。

- 1、入園資格は、原則として60才以上の人、
 - 2 原則として1日4時間働らき、雨天と土曜日、日曜日は休日、夏期は昼食後、午後5時まで昼寝
 - 3、主な働らき場は、浜松市三方原町と引佐郡細江町に跨る38000坪の聖隷福祉事業集団の敷地の花づくりと庭園の整備清掃であるが、老人達の職業を生かしての自由な軽労働をするのを原則とする。努力は飽くまで自由であって奴隷労働は絶対にさせない。
 - 4、入園者の健康管理は聖隷病院と聖隷浜松病院が担当し、毎月一回、無料又は軽費で健康診断をし、年一回、癌、心臓病、高血圧等の健康検査を行う、又、常時、専任の看護婦、ケースワーカー、栄養士がいて、凡ゆる相談にのり、老人に適した料理を提供して快適な老人生活を楽ませる。
- また、専任の牧師がいて、永遠の生命を生きる霊的指導を行う。

5、園の提供する食事を食することも自炊することも自由である。園の食事をするときには実費を支払う。

6、希望者には無料で敷地を貸与して、自分で小住宅を建てて生活することが出来るようにする。

但し、その人が召天した場合、その家は無条件で「エデンの園」に寄附するものとする。園はこれを老人の福祉のためにのみ用いる。

7、敷地は花卉や果樹を植え、その果実や花を自由に食卓に供することが出来るようにする。

8、午後は何時でも入れる浴場を設備する。

9、在園者が有病老人となった時は十字の園、特別養護老人ホームに入園することが出来る。

10、エデンの園に入園しようとするものは原則として一人金5万円以上を当園に寄附するものとし、金50万円以上の寄附をした者は生きる限り園が、その生活を保障する。

11、本園の運営は社会福祉法人聖隷保養園が、これに当る。

園長 鈴木唯男 事務長 小松松吉

12、収容定員は100名とし、第一期 20名
第二期 50名 第三期 100名として完成する。

13、旧富士紡館を改造して開設する。

開設日時 昭和43年6月1日。

以上

昭和47年(1972年)
機関誌聖隷61号に
掲載された「エデンの園」
定礎式について

聖 隷

わたしたちは与えられた恵みによって
それぞれ異った賜物を持っている。

(ロマ人への手紙 12章6節)



わかば保育園運動会 47. 10. 7.

聖 隷 保 養 園

第 61 号

1972・10

(7)



法人本部事務局

「エデンの園」 定礎式

浜名湖「エデンの園」の定礎式が九月十四日午後二時から西村牧師の司式によって営われました。理事長始め、役員の方々や工事関係者が参集し建設現場に於いて行われ理事長によって聖書が記念に献げられました。この日はあいにくの雨でしたが理事長は「今日の生きがいを見失い自殺の多い老人に生きがいと希望を与えるホームとなるであろう」と語り、西村牧師・鈴木常務が工事の安全と神の祝福を祈って終った。

敷地は、もと恩賜館のあった付近ですが、このエデンの園が完成すると地上七階一六〇名が住むようになり、三方原の聖隷保養園は一段とデラックスな鉄筋建物の並ぶ近代的な美しさを増す事でしょう。

老人福祉問題が今日さまざまな方面から取上げられるようになりましたが、公害や、家族構成の変化等によって老人問題が貧しさだけでなく生きがいを失い孤独におそれ原因不明の自殺者が増え又停年退職後住むところもなく困っている人々も多いのです。

こうした老人を救いたいという願いと祈りから全国にまだ例のない老人世話ホームエデンの園の建設が実現されたのです。入居受付もすでに始っており、東京や大阪からも申込者が多く浜松市の福祉事務所から紹介された六二才だという紳士は「普通の老人ホームでは年寄り扱いにされるのでもっと自由のびのびと働くことのできる所はないかとさかしておりました。私が長年望んでいた所です。せ

☆

☆

ひ入居させて下さい。これで安心しました。ほんとによかった。」と大変喜んでおられた。又雄踏町の七十才になる婦人は「経済的には何の心配もありませんがどうしても家の中が複雑でうまくいかないの私さえないなければうまくいくと思えますからぜひ入居させて下さい。」とこれも大変喜ばれました。

今後さらに入居受付の本格的な活動につれ、東京や大阪の公害と過密都市に悩む老人達にすまきった空と緑につつまれた自然の中で豊かな老後を送るためにエデンの園はすばらしいホームとなることでしょう。

九月十五日敬老の日には各新聞にも取上げられました。新聞を見て入居申込をされる方もあり、エデンの園の新しい事業は全国の各方面から注目されつつあり、今後の発展に大いに期待されるものと思えます。

聖 隷

新しき歌を主にわかって歌え。
主はくすしみわざをなされた
からである。

(詩篇 98 節 1 節)



聖隷福祉事業団 第95号

昭和54年(1979年)
機関誌聖隷95号に
掲載された
長谷川保の投稿

— 卷頭言 —

聖隷の予言者的活動と 高齢者問題



聖隷福祉事業団理事長

長 谷 川 保

人間の福祉の基本が健康にあることは間違いない。それ故に聖隷福祉事業団は過去50年に亘り聖隷病院を中心として今や世界にも稀な福祉事業集団を發展させて来たのである。理事長が衆議院議員として前後20年に亘り努力したのは国民皆保険と昔年金制度の実現であった。このことは今日、日本国民の平均寿命が男72.69年、女77.95年を結果し、世界最高水準の長寿国を実現した。この結果、老人問題が我が国の最も重大な社会問題となった。昔年金の出発が遅れて、厚生年金も国民年金も未だ未成熟に5年乃至10

年を要し、更に老人医療費の急増と老人の住宅並びに介助体制が極めて不十分であるからである。

理事長が老人問題と取り組んだのは敗戦直後である。戦争で頼りにする息子や娘を失い全財産を失って飢餓と窮乏の中に死なんとする老人を憂いて生活保護法の制定に全力をそそぎ、それによって各地に無料の老人ホームを造ったことに始まる。然し、昭和33年に欧米調査旅行の際米国で日本の老人の自殺率が世界一であることを発見し、然も老人自殺の第一の動機が病苦であると知った時、寮病



院で直ちにこれを取り上げ、その結果十字の園が開園されて日本で最初のおたきり老人の施設が出来て、これが動機で老人福祉法が制定され今や全国に600の特養が出来、毎日5万人の老人が保護されるに至ったのである。それから10年たって、日本は世界の奇蹟と言われる経済発展を遂げ、国民の生活水準は著るしく向上し、老人の自殺は幾分好転したが、70才以上の老人の自殺率は今世界一で昨年1月～3月の愛知県の60才以上の老人の自殺数は、同じ期間の同県の交通事故死者数と同じ100人で、その他孤死、交通事故死老人数を加えれば全国では莫大な数に上る。然るに全国の無料老人ホームは空きベットが出来ている。この問題を解決するために発明されたのが高齢者世話ホームエデンの園で特別介護老人ホームの関連施設として、老人を病気にさせない、病気になるば

直ぐに治し、万一寝たきりになったらおたきりの世話までする世界にも稀な施設である。開園後既に6年、これは大成功であった。

53年度厚生白書は、65才以上の老人は956万人に達し、昭和100年には2100万人に達すると言っている。そして現在60才以上の孤独老人212万世帯、前年比に比し6300世帯が増加している。エデンの園を全国に100施設しようとの聖隷の計画は正に日本社会のコードを先見したものであったのである。本年1月4日に発表された社会保障長期計画懇談会(有沢広己会長)の厚生大臣への意見書は、高齢者の住宅問題、然も中流階級の生活上の安定、ホームヘルプサービス制度の充実の重要性を指摘している。聖隷が現在取り組んでいる、エデンの園、ヘルパー学園、ホスピス建設等悉く日本社会のニーズを充つ予言者活動であることは全く明白である。

昭和54年(1979年)
長谷川保夫妻
浜名湖エデンの園
園内行事

